

# 失業率3年3カ月ぶり3%

## 8月コロナ雇用悪化続く

総務省が2日発表した8月の完全失業率(季節調整値)は、前月比0.1ポイント上昇の3.0%と、3年3カ月ぶりに3%台になった。完全失業者数は、同じく3年3カ月ぶりに200万人を突破。同日発表された8月の有効求人倍率も8カ月連続で悪化しており、新型コロナウイルスの影響による経済への打撃で、雇用情勢の悪化が続いている。

8月の働き手の数(就業者数)は、前年同月より75万人少ない6676万人だった。産業別にみると、製造業が52万人、宿泊・飲食サービス業が28万人、卸売り・小売業が16万人、それぞれ減っていた。新型コロナによる国内外の需要減が大きい業界で、働き手の減少が目立つ。非正規雇用の働き手は、前年同月に比べて120万人減っており、うち7割が女性だった。

再就職の環境も厳しさを増している。厚生労働省が2日発表した8月の有効求人倍率(季節調整値)は、前月より0.04ポイント低く0.04倍で、8カ月連続で悪化した。

## 求人倍率0.04倍 再就職も厳しく

再就職の環境も厳しさを増している。厚生労働省が2日発表した8月の有効求人倍率(季節調整値)は、前月より0.04ポイント低く0.04倍で、8カ月連続で悪化した。求職者1人あたり何件の求人があるかを示す指標だが、14年1月以来、6年7カ月ぶりの低水準だ。就業

地別で見ると、北海道・青森・埼玉・千葉・東京・神奈川・静岡・滋賀・大阪・兵庫・高知・福岡・沖縄の13都道府県で1倍を下回っている。

日のお見で「職種転換を考えている方は、職業訓練も見据えてハローワークの窓口で相談してほしい」と話した。

一方、緊急事態宣言下の4月に597万人まで膨ら

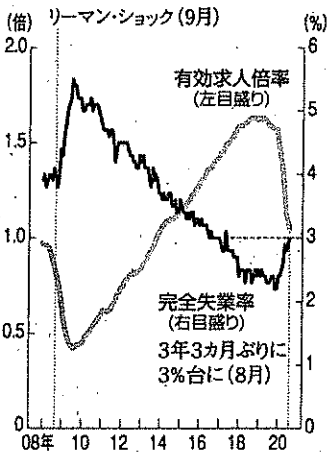
新規求人数は、宿泊・飲食サービス業や生活関連サービス・娯楽業で、前年同月より4割以上も減った。減少幅は7月より拡大しており、こうした新型コロナの打撃が大きい業界で失職した人が、同じ業界で再就職を果たすことの難しさが浮き彫りになっている。

また、感染拡大が落ち着いたことで職探しを始めた人が増えているほか、新たな業界への転職は簡単ではないため就職活動が長引く傾向もあり、求職者は4カ月連続で増えている。

また、感染拡大が落ち着いたことで職探しを始めた人が増えているほか、新たな業界への転職は簡単ではないため就職活動が長引く傾向もあり、求職者は4カ月連続で増えている。

ただ、感染拡大が落ち着いたことで職探しを始めた人が増えているほか、新たな業界への転職は簡単ではないため就職活動が長引く傾向もあり、求職者は4カ月連続で増えている。

有効求人倍率と完全失業率の推移



省は「(休業者の水準は)コロナ禍前の状況に戻りつつある」とみている。完全失業率は、リーマン・ショック後の2009年7月には5.5%まで上昇した。今後の見通しについて、ニッセイ基礎研究所の斎藤太郎・経済調査部長は「個人消費は回復の兆しがあり、景気は底打ちしている」とみられるが、労働市場の回復は遅れる傾向がある。今年度いっぱい完全失業率の上昇が続く、4%前後まで上がる可能性がある」と指摘する。

また、ソフトウェア開発などのIT関係は引き続き人手不足で、採用競争が激しくなっているという。土田浩史・東京労働局長は2

ただ、感染拡大が落ち着いたことで職探しを始めた人が増えているほか、新たな業界への転職は簡単ではないため就職活動が長引く傾向もあり、求職者は4カ月連続で増えている。

(自由貴司、藤崎麻里、岡林佐和)